

令和5年度 第1回学校運営協議会 記録

1 期日 令和5年5月25日（木）午前9時15分から11時15分まで

2 場所 静岡県立藤枝特別支援学校 多目的学習室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

委員 A、委員 B、委員 C、委員 D、委員 E、委員 F、委員 G

(2) 本校職員

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、
肢体学級統括主任、教務主任、地域連携課員

4 進行等

司会：副校長 記録：教務主任



5 内容

(1) 開会（副校長）

<任命状伝達>

令和5年度藤枝特別支援学校第1回学校運営協議会を始めます。

お手元の冊子に本日の次第が書かれています。本日は、こちらの次第に基づいて進めさせていただきます。

(2) 学校運営協議会委員任命状伝達、会長の紹介

*校長より、運営協議会委員の委託、任命状伝達、会長の紹介

(3) 校長挨拶

本年度4月1日に前任校袋井特別支援学校から赴任してまいりました。家は掛川で、こちらの中部地区の学校に勤務するのは初めてとなります。初めて大井川を越えたなという感じでこちらに勤めています。学校の規模や障害による対象の児童生徒さんは、前任の学校と同じですので学校の中の子供たちの学びは似たところがあるといった印象です。しかし、地域が違いますと子供さんの様子や保護者様の抱えている嬉しいことや辛いことが少し違うなど、着任して感じたところであります。本校は、今年度児童生徒数は355名です。昨年度よりも増えていますし、やはりここ数年、知的障害の特別支援学校に在籍する子供の数が少しずつ増えてきているというのが全県を通じての印象です。本校では、6人が訪問教育という形で学校の教員が自宅に出向き、自宅での学びをしており、その他の子供たちが通学をしているという形です。藤枝市

から通っているお子さんは 165 人、焼津市が 112 人、島田市は 71 人、川根本町からは 1 人ということで、やはり所在地である藤枝市から通ってくる、あるいは訪問を受けている子供さんが多いといった現状です。その中で、コロナ感染症が 5 類に移行され、少しずつ教育活動も地域の皆様に支えていただきながら地域の方に来ていただいたり、私たちが地域へ出て行ったりして、より深い学びにつながるとういなど考えているところです。本会議で何か御提案や、学校に対してこんなことをやれるとういのではないかと御意見をいただいたりして、今日の会議の中でいくつか御示唆いただくと有難いと思います。今日は午前中、長時間になるかもしれませんがよろしくお願いいたします。

(4) 会長挨拶

やっとコロナがインフルエンザと同等の扱いになったという現状ですが、これまで私たち施設側は 3 年間眠れない日々を過ごしていました。胃がキリキリ痛かったです。私共のような小規模の NPO 法人は一度集団感染したら、経営が立ちいかなくなってしまいます。どうやって障害のある子供たちを守るか、また、もし感染したら死んでしまうかもしれないという状況と、その家族、スタッフを含め、どう守るかということだけが頭の中にもありました。朝から消毒、検温、喚起、うがい・手洗い等、本当に大変な日々でした。現在は手を抜いて良いというわけではありませんが、職員には少しずつ日常を取り戻していきましょうと話をしました。その時の夜、すごく眠ることができ、私はこんなに 3 年間眠れていなかったのかと思ったら本当に辛い 3 年間でした。

少し気がホッとしたなと思った矢先、今回「会長」という話でした。私は、色んなことを、言わなければならないことをはっきり口に出してしまうタイプです。私の嫌いな言葉は「やったごっこ」「いい加減」「お体裁」といったことです。真剣に毎日を有意義に使いたいと思います。私たちは普段学校教育に関わっていないので、この会議に参加するという 2 時間はとても貴重です。ですので、この時間を「ごっこ」にしないために、事前に協議会の資料を送っていただけると協議内容について考える時間を設けることができ、意見も出やすいかなと思います。次回からはそのようにお願いしたいと思います。会進行の中で色んなことを皆さんと考えていきたいと思ひますし、屈託ない意見をいただきたいと思ひますので、一年間よろしくお願いいたします。

(5) 自己紹介

【委員 A】: 焼津と島田に事業所をかまえております。私の思いの中に、障害の方の就労を支えたい、自力で稼いで法律や制度に頼らずに生きていける人を育てたいと思ひています。相談支援センターもやっております。就労移行もこの界限では減っている状況の中で、熱心に取り組んでいます。とにかく、どんな障害があっても働くことにスポットを当てて支援していきます。よろしくお願い致します。

【委員 B】: 町内はこの地元の忠兵衛町内会です。昨年に引き続き、また委員というこ

とでやらせていただきます。よろしくお願いいたします。

【委員 C】: 私の専門は子育て支援と健康教育です。子育て支援という視点からは、特別なニーズのある子供の増加、健康教育という視点からも障害の有無に関わらず健全な子供たちも小さい時からインクルーシブな教育をするということが全ての人々にとっての健康という視点を子供のときから教育していきたいという願いがあります。そのために、保護者支援が重要となっているということを考えて日々研究活動に取り組んでおります。皆様と共に勉強しながら進めていきたいと思っております。お力になればと思っております。よろしくお願いいたします。

【委員 D】: 昨年に引き続きまして、委員をやらせていただきます。弊社は、藤枝特別支援学校様と非常に馴染みがありまして、藤枝駅南店でも生徒さんの作品を展示させていただいたり、また就労を目的とした実習の受け入れをしたりしています。就労面と絵画を飾るということで教育の面とも関わりがありますので、また引き続き企業の側面からみたお話をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【委員 E】: 昨年、この学校運営協議会が発足といいますが設立されまして、このような形で地域や企業の方が入られて連携した取り組みがなされたということで、大変素晴らしいと感じております。その中で、行政として藤枝特別支援学校さんと一歩踏み込んだ取組までいけなかったということが私の力不足であります。すみません。今年度、市の障害者計画及び障害福祉計画を立てる重要な年になります。コロナもあけまして、障害の支援をされている方は本当に大変だったと思っておりますが、今年からまたにぎわいを取り戻して、触れあいを取り戻して活動に盛り込んでいけるような計画を立てていきたいと考えています。引き続きよろしくお願いいたします。

【委員 F】: 本校は開校 112 年目になります。地域の方々に本当にお世話になっております。本校では、今問題になっている募集に関して、大変な時期を迎えております。少子化で子供が減っている現状の中、やはり公立思考がまだ強い中、そして共学思考もありますので、これから先どのようにして続けていくかということに重点を絞って、運営委員会を進めているところです。本校ももっと自分の学校をアピールしていかなければと考えています。アピールの方法を検討し、本校の良さを皆さんに見ていただくと考えているところです。こちらの運営協議会で皆さんの御意見を聞きながら、本校に活かせるものがありましたらそれも活かしていけたらと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。(途中より参加)

【委員 G】: 保護者としての視点から意見を言わせていただく程度になりますが、少しでもお手伝いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

*職員自己紹介

(6) 協議 I <進行：委員 A>

○令和5年度学校経営計画の説明（校長）

校訓は「ひびき合い、つくり合う」。本校が開校以来大事にしてきた言葉の一節であります。その言葉を大切に、学校教育目標「ひびき合い、つくり合う中で、自立に向けて力強く生きる人を育てる」という大きな目標に向かって今年度も進んでいきたいと思えます。355名の子供たちがいて、知的障害のある子供たち、あるいは知的障害に併せ持つ障害として肢体不自由のある子供たち、色々な子供たちがいる中でその子一人ひとりにとっての自立に向けて力強く生きていってほしいなという願いが込められています。目指す学校像は、その教育目標に対して補足の説明として、児童生徒が地域社会の中で自立した生活ができるようにするために、安全・安心な学校生活を基盤に、周りの人たちと豊かに関わり、自分らしく力強く生きる人を育てるということを、大きく掲げています。キーワードは「安全・安心」、あるいは関わり合うというところで「連携」になるかと思えます。目標を具現化していく大きな柱として、4点あります。安全・安心としては、命のこと、人権を尊重していくこと、それらの学校づくり。2番目としては、色々な場面で業務の効率化ということが求められておりますので、効率よく業務を行いながら児童生徒の学びを支えるための学校づくりとして色々な整備等を進めたいと思えます。3番目としては、学校の中では授業の時間が大半となりますので、一人ひとりの確かな発達と成長を支える授業を行っていく。最後は、地域の皆様、保護者、児童生徒、様々な関係機関と共につくり合う学校ということで4つの大きな柱を立てて進んでいくところです。その4つの柱を支えるものとして、今年度の取組、取組目標、成果の目標を以下（学校経営計画参照）のように作成しました。安全・安心としましては、人権意識の醸成や子供たちにとってもそういう気持ちの高い児童生徒を育成するという学校生活づくり、また、人権教育の充実、そして、教職員間・児童生徒への接し方を確認していきながら学校を作っていきたいと考えております。二つ目は、事故防止や校内整備点検、危機管理のところですか。想定した以上の児童生徒数が本校で学んでいます。なかなか狭隘解消は難しいのですが、整理整頓をしたり様々な訓練を実施したりしていくことで緊急時の対応を私たち自身が意識を高めながら教育活動を行っていくことをしていきたいと思えます。また、業務を効率よく進めていきながらより良いものを生み出していきたいということで時間の確保、あるいは見直しを今後も進めていきたいと考えています。

授業のことにつきましては、特別支援学校、特別支援教育で作っている個別の教育支援計画・個別の指導計画を基盤としまして授業をしていく、そして一人ひとりが確かに成長していく授業ができるよう専門性の向上を図っていきたいと思えます。また、テーマを設けながら班に分かれて研修を推進するということと、年間の指導計画をその都度見直していくことで子供たちの実態に合い生活に合う、そんな計画を立て実践

していくことを見直しながら進めていくところです。コロナで良かったことはそんなに無いのですが、学校教育現場としてはICTの機器が充実したのかなと思います。私が教員になったとき、まさかZOOMで授業をするとは思っていませんでした。良かったことも数えればありますので、そういうことも上手く活用しながらより教育の幅を広げて学びが深くなるように進めていきたいと思っています。外部からは専門の先生に来ていただき、授業や指導の場面を見ていただきます。また、知識理解を高めるための研修等を行っていきます。

連携につきましては、就学前から卒業後まで一貫したということが大事かと思いません。進路の手引き、進路体系図を作成しておりますので、色々なところで活用し、今の段階で必要な学習は何かを確認し合って小学部1年生から高等部3年生までそれぞれの発達段階に即した進路指導を積み上げていきたいと思っています。地域資源を活用して共生社会を目指して連携体制を充実していくところでは、従来から行っている学校間交流や小中学部が対象になりますが交流籍を活用した授業を行うこと、また、作業製品の販売や図工美術の作品の展示などを通して発信ができればと思います。今回のような学校運営協議会の中でいただいた御意見を上手に活用しながら、教育活動が益々充実していけるといいかなと計画を立てました。以上になります。

○意見、質問

【委員D】：質問です。昨年運営委員をやらせてもらい、一年間で意見を述べさせてもらいました。意見が多方面からでていいる中で、それらがどのように反映されているのか、改善されているのかを知りたいです。できること、できないことがあるかと思いますが、こちらも改善したい・良くしたいという思いをもって話させていただきましたので、そういったことがこの計画にどのように含まれているのかが明確になると良いと思います。この大きな枠組み（学校経営計画）では記載されていないのかもしれませんが、実際に取り組むときにどのように反映されているか、改善されているかについて改めて考えていただきたいと思っています。

【校長】：ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。この場でいただいた意見が直接どの文言だということよりも、それを教育活動のどのあたりで活用していくのかということ考えていきたいと思っています。この第一回の会が、来年度も同じ時期になると思います。一年間分の教育活動が年度末には立てられていますので、この会でいただいた御意見がそれぞれの教育活動の中で膨らめていけるように見直していきたいと考えています。また、それぞれの学部で検討できることは学部主事を通して確認していきます。長い期間をみながら反映・改善していくものと、直ぐにでもできるものとを精査しながら取り組んでいきたいと思っています。ぜひ、今後も御意見をいただければと思います。ありがとうございます。

【委員A】：ありがとうございます。私も＜委員D＞と同じ意見をもっていて、去年話

し合った内容が今年、こんな風に改善します、こんな風に引き継いでいますといったことが示されていますと、委員として意見を言った甲斐があると思いますので、こちらの経営計画に入れて可視化をお願いしたいと思いました。それから、経営計画の取組内容をもっと具体的に示していただきたいと思いました。例えば、「教職員の高い人権意識の醸成と自己肯定感や人権意識の高い児童生徒の育成」では、達成方法が「人権教育の充実や児童生徒への適切な接し方について確認し合う機会の設定」とありますが、具体的にこんな風に考えていますというものがありますか。

【校長】：ありがとうございます。まさしく、抽象的かなという印象がおありかなと思います。学校経営計画は各学校が立てるわけですが、これが根幹となるものとしてあり、ここから各学部の教育活動をより細かく立て、それが具体的な実際の授業場面でどのように行うのか、教師がどのように実践するのかということをもとめているところです。コンパクトに経営計画を確認して目指す方向を示して、細かい計画については各学部で行って、そしてまた一人ひとりの子供さんに対する授業の場面では授業計画を作成して実施していくという仕立てになっています。今日お渡ししてある学校経営計画は雑駁なもので恐縮ですが仕立てとしてはこのような形となっております。

例えば、先ほど「人権」についてお話がありましたので、学部主事から具体的な内容を説明します。

【小学部主事】：小学部につきましては、学年会の中で子供との関わりはどうだったか、教員が発した言動や子供の態度はどうだったか等を振り返られるような時間を設定しています。

【中学部主事】：中学部では「さん」付けは、徹底することを基本としています。例えば、朝の出席確認でも「さん」付けをする等、細かなところでも配慮するようにしています。個々の生徒への指導については、私が気付いたところで学年主任や担任に直接、頭ごなしの指導になっていないかという視点をもって臨むようにしています。

【高等部主事】 高等部でも「さん」付けについてはずっと徹底して行ってきています。部活では、例えばグラウンドで咄嗟に声を掛けるときは、そのときの状況や雰囲気などでなかなか厳守することは難しい場面もありますが、基本的に校内で授業をしているときはどの職員も「さん」付けを守れているかと思います。学部評価も毎年2回行っているのですが、そちらの評価でも職員は自信をもって「さん」付けをしていると答えることができます。また、職員が生徒の見本になるようにということで乱暴な言葉遣いにならない、ポケットに手を入れたまま話をしないといった具体的なことを部主事からも話しています。昨年度からの引継ぎの部分で、地域との連携が色濃く出ていたかなと記憶しています。後ほど校内参観の時間でも見ていただきますが、高3が職場実習に行く前段階の集中作業を行っています。今日も県武館の方に清

掃に行かせてもらうのですが、校内だけでなく地域に出て行って、人が通ったら挨拶をする、道を空けることに気付くなど、作業を通して作業以外のことにも取り組めるようにしています。

【肢体統括】: 1組は、自分たちから発信することができる生徒ばかりではないので、取り分け子供への関わりについては教員が意識をもって高めて関わっていくしかないのかなと思っています。小学部の説明でもありましたが、学年会の中でお互いの関わり方はどうだったかを確認する場面を設定して日頃から子供たちとの関わりについて確認しています。今年度は、加えまして子供たちの良いところに目を向けて、得意な動きや表出を授業の中で発揮できる場面を作ったり、生活の中で発揮できる場面を作ったりしています。学年会の中でもその子供たちの良いところを伝え合う時間を設定していこうと考えています。

【委員A】: ありがとうございます。具体的な話が出てきたので、頭の中も少し柔らかくなったように思います。

他に、質問や感想があればお聞きしたいと思います。

【委員E】: 自分たちも行政として、計画を立案することが非常に多くて、形骸化してしまうという指摘の中でどうすれば実効性のある計画になるか等々について本当に四苦八苦しているところであります。学校経営計画というものがどんな形で毎年作られているかがわからないところですが、去年と比較するとほぼ同じなのかなと思います。行政の計画も比較的そうなりがちではあるのですが、その中でもみなさんに御意見を聞くときには、ここを目玉にしている、ここを改善したというところを中心に説明するというのがオーソドックスなやり方です。今、経営計画を見させていただくと、「ア、イ安全・安心 業務の効率化」の目標部分で去年は5例以上となっていたものが、「業務の見直し各事例3例以上」となっています。去年の評価の中では8例プラス個別に1例で9例と挙がっていてかなり達成度が高かったと思うのですが、あえて3例に下がっているところがあります。また「ウ授業」では「各教科等を合わせた指導の学習評価が理解できたとする教員80%」が昨年なかった事項になります。後は、ほとんど同じなのかなと思います。昨年3回目の会議の中の議事録を読ませていただいて、本当に素晴らしい議論をしていただいたなと思いました。特に就労のところですが、<委員D>をはじめ意見があった親への理解・啓発教育のところ、この「エ連携」の進路体系図が今後どのように反映されていくのかを説明いただければと思います。

【校長】: ありがとうございます。一つ目の業務改善3例以上については、去年より大変低くなっているという御指摘かなと思われま。本校は教職員が200名弱、指導する教員が170名ほどいて、そのうち40名近くが毎年異動で変わります。その中

には経験の浅い職員もいますし、初めて教員になる人、あるいは研修交流といって小中高の通常の学校から初めて特別支援学校に来る職員も含まれています。去年出来たので今年は少しグレードアップを目指したいというところもあります。職員が入れ代り立ち代わりで変わっていても、継続していくということを学校経営の中で大事にしたいところでもあります。業務改善のところでは、私は会議の数を減らすことや業務を見直していくというところはどの学校もある程度進んでいるかなと思います。すると、いかに違うところで業務改善をしていく必要があるかと思います。例えば書式を変えて書きやすくする、指導で必要な教材教具は共有しながら、誰が見てもすぐに使える場所に置いてあるなどといったことで業務改善に向かっていく時期なのかなと考えています。事例の数としては昨年度より少なくなっていますが、色々な視点から改善を整えていければと思います。二つ目の授業のところですが、本校の授業が上手になっていきたいという研修のテーマとして、昨年度、いわゆる各教科（国語・算数・数学等）の指導を充実して行い、それが「できた、できない」をきちんと見取ることを重点的に取り組みました。そして今年度、研修二年目の学びとして「合わせた指導」という書き方をしてありますが、特別支援教育で学習指導要領に定められていて実施ができていく「日常生活の指導」「生活単元学習」「作業学習」の中で、知的障害の子供さんの理解の仕方が各教科よりも総合的な学びの方が、教育効果が得られているということでそのような指導形態で行ってきています。「合わせた指導」がきちんとできていくということも整合性を高めていく上で大切に考えています。昨年度、各教科で教えることの学びをしたものですから、それらを活かしながら今年度は「合わせた指導」を行っていくということで新たに成果目標として掲げてあります。三つ目の進路体系図、あるいは親御さんへのお伝えの仕方のところですが、本校では個別の面談で親御さんと直接子供さんの姿、成績表のようなもの、あるいはその前段階である計画で、「個別の教育支援計画・個別の指導計画」を共に共有していく中で将来を見据えて今この段階ですね、とお伝えしながらやっているところです。こちら（学校経営計画）にはそのような表記はありませんが、各学部の経営の方では面談の使い方について、また、どのような児童生徒の目指す姿があるかをお伝えしていくということに取り組んでいます。あるいはホームページにアップしたり、おたよりを出したりして将来的な卒業後の生活に向けてお伝えしているところでもあります。

【委員 A】：ありがとうございます。他に御意見がありましたらお願いします。

【委員 D】：今、校長先生からお話をいただいたように、業務の効率化というところで人の入れ替えが多いということでは、引き続きいることを前提に更に良くしていくという視点と、同じことができるようにするということの両側面があります。ただ、同じことができるというのは基本です。ですので、引継ぎがしっかりできる形を作っていくことが業務改善につながってくるのかなと思います。早めに業務が引き継げて、同じことが同じようにできるまでの期間を短くすることが業務効率につながってき

ますし、更にバージョンアップしていくことができるのかなと思います。引継ぎが多いのであれば、その引継ぎの体制をしっかりと明確化して効率よくできるようにしていくことが必要かなと思います。ただ、その中でも毎年良くしていくというのが必ず必要だと思いますので、居るからといって同じようにできるだけでは改善にはつながっていきませんので、改善策として明確化することが必要だと思います。この学校経営計画でいうところの3例以上という成果目標は、厳しい言い方になりますが、本来では「計画」なのかなと思います。明言化されてこれをやるというのが「計画」になりますので、一年経った後に「3例できました」というのは結果でしかないという形になります。結果どうだったかではなくて、何をやるという目標があった上でそれを達成することが計画になります。ですので、具体的な例を挙げた方がより良いのかなと思います。

【委員A】：ありがとうございます。素晴らしい意見だと思います。言葉のマジックでごまかされてしまうことが色々出てくるのですが、当たり前のこととそれを明確化することが今後どう活かされるかという、やはり何をやるかが大事だと思います。良い御提案をいただいたと思います。他にございますか。感想等もお願いします。

【委員B】：学校経営計画としては、毎年同じような形で出てくるわけですけど、これは小中学校も同じです。4つの柱がある中で、私は地域の関係ということで、はたして地域の連携というものが昨年からみて、できているのかなと思います。もう少しコミュニティースクールの連携があるといいなと思います。近くには明誠高校もありますし、コミュニティースクールのコーディネーターもいますので、もう少しそういった話し合いができるといいなと思います。是非、今年度も上手く連携できたらと思います。

【委員C】：初めてで、これまでの経緯ですとか地域性あるいは校風といったところを私も存じ上げない中での感想になります。お話を伺いまして、日本というか静岡県の特性かもしれませんが、ぼんやりさせておくことの良さがある中で何か新しいことをしていこうというときに、やはり明確に具体的にしていくことはエネルギーがいることとは思うのですが、その辺りのバランスというかこれまでのことを踏まえて具体的に何をしていくかということを書かれていますが、やはり具体的なことを効率的にやっていくということが必要なのかなと思います。私の言っていることもぼんやりのように聞こえるかもしれませんが、バランスを短い時間の中で調和をとりながらやっていくということ、具体的に意識化していくと形になりやすいのかなと感じました。

【委員A】：ありがとうございました。

では、令和5年度学校経営計画に承認いただける方は挙手をお願いします。

*全委員、挙手。

【副校長】：ありがとうございました。

では、この後は校内参観となります。各部主事が御案内します。

(7) 校内参観

小学部 → 中学部 → 訪問教育 → 肢体教育 → 高等部

(8) 協議Ⅱ

テーマ：「藤枝特別支援学校を、地域の方々にさらに知ってもらう（地域とつながるためのアイデア）」

【委員 A】：テーマについての御意見と校内参観をした感想などをお一人ずつ伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

【委員 B】：地域とのつながりということで、地域の行事への参加があるかと思いません。先ほど、先生からお話をいただきましたが、絵画作品の出展もありますが、「ふれあい祭り」というものがありますので、学校でもよさこいをやっていると聞きましたので参加していただければと思います。

【委員 C】実際に子供たちの様子を拝見して、先生たちが非常に丹念に御指導されているなという印象をもちました。この様子を大学生なども見学させていただける機会があれば嬉しいなと思います。また、機会があれば学園祭などでこちらの生徒さんたちの作品などを大学の方に紹介させてもらうという交流が可能かなと感じました。

【校長】：ありがとうございます。大学生のボランティアは募集しております。本校でも今年度は、浜松学院大学の学生さんがボランティアで来ています。また昨年度も常葉学園大学、浜松学院大学の学生さんが希望に合わせて来ていただいていますので、いつでも声を掛けてくださればと思います。

【委員 D】：更に知っていただくということで、弊社の方でも学校作品や絵画の展示などをしています。少しでも知っていただく機会や、発表の機会というのを作っていただければと考えております。それ以外のところとしても、知っていただくという意味では外に出る、招く、発信の3つが大事かなと思います。外に出るというところでは、弊社やよそのところにアピールする場を設ける、あるいは来ていただいて実際にやっている場面や姿を見ていただくことかなと思います。やはり、本日参観したように見てみないと分からない部分もあると思いますので、外部の方が見られる機会を定期的に作っていくことも大事かなと思います。また、発信するというところでは、現状はホ

ホームページ以外で何かやられていることはございますか？

【副校長】：ホームページはやっております。また、出向いた先で少し紹介をすると
いったことをしています。

【委員 D】：ホームページ以外にも取組といったところでは、インスタや YouTube を
活用しながら撮った動画などを編集したり取り上げたりすることもできます。特別支
援学校の生徒が作った作品ですと言って発信する場合は、求めていかなくても自分でそ
のような場を作ることはできるかなと思いますので、学校独自で発信できる場を広げ
ていくと良いのではと思います。

【校長】：例えば御社で、こういう店舗にどんどん出していけるよということがあれ
ば教えていただきたいです。近隣ですと藤枝駅南店さんですね。先日も本校に来て
いただいて、大変丁寧な SDGs の説明をしてくださり勉強させていただいたので、他
の店舗でも関わることができればありがたいので、また御検討していただければと思
います。

【委員 D】：受け入れができる距離や店舗のスペースなどを考えると、藤枝駅南店や高
洲辺りが中心になるかなと思います。

【委員 F】：本校は今、特別支援学校の絵画を何点か展示をしています。本校の生徒も
それらを見て感想を言ったりしていますので、今年も継続していきたいと思います。
それから、駅南のお祭りにも参加しているので一緒に参加できれば良いと思います。
また、本校にはダンス部がありまして6月には発表があります。今後も一緒に何かで
できればと思います。

【高等部主事】：高等部にもダンス部がありますので、コラボできればと思います。

【委員 F】：本校はソーラン節もやっていますので、そちらについても一緒にやれたら
いいなと思います。

【委員 E】：共生社会の実現というところで承認理解というのは、障害分野では特に大
きな課題なのかなと思います。行政もどのような形でやるのかと試行錯誤している
ところでもあります。そんな中、コロナで色々なイベントが停滞していたところですが今
年度から様々なイベントが始まるかと思っています。今、<委員 F>からありました「て
いしゃば」という駅前の駅北・駅南で定期的に歩行者天国にして、色んな展開をする
事業を行っています。支援学校さんだけではなく、市の色々な施設、作業所でどん
な形で共生していけるかを今年もう一度考えようという機会で、これまで3年前まで

行っていた「ともフェス」という市のイベントを、今年もう一度最初からしっかりと交流という形ではなく、一般の方に知ってもらえるきっかけになる活動にするということと動き出しています。そんな中で出た意見で、今、＜委員 F＞も話された「ていしゃば」であるとか、産業祭、フードフェスタであるとか、＜委員 D＞が言われた「出向く」というところをもっと積極的に機会を作って一般の方と一緒にやるということとを当たり前のようにやるという土壌を作っていけたらと考えています。また、色々とお声掛けさせていただきたいと思います。是非、その時にはお力添えをよろしくお願いしたいと思います。

【委員 G】: 保護者としても、障害者の子はこんな子だよと世間一般によくわかってほしいなと希望はもっています。＜委員 D＞がおっしゃたように、アピールするには、招くか出向くかということで、そうだなと思いました。招くというのは、ここ数年コロナでふじとくまつりでもお客さんをお客さんと呼べなかったこともありましたが、そういう行事や作業発表会などで来てもらうことでもっと積極的にアピールしていくことがいいのかなと思いました。ただ、駐車場がないというのが問題ですよ。やはり、便利でないと来てもらえないので、交通の便については課題があるなと思います。どれだけアピールできるかと足（交通）の部分が重要だと思いました。あとは、「出て行く」といった部分では先ほどもありましたが、「ともフェス」などのイベントで発表していただくのは大変ありがたいなと思います。静岡の地下街で行っている「チームかがやき」の参加募集などもきますし、ダウン症のお子さんがダンスをしている「プレアデス」のお知らせもきますので、こんなイベントがあるよという情報をもっといただけるといいかなと思います。我が子のこともアピールしたいので、色々なところに連れて出かけるようにしています。先日は、ミュージコのピアノマラソンに参加しました。また、ダンスもの習い事もしていますので、ダウン症の子だけのチームもあり一般のチームに混じって参加しています。ですので、こういった習い事や見に行けるイベントがあるということもお知らせしていただけるといいなと思います。

【委員 A】: たくさんの御意見ありがとうございました。今日のキーワードは、「発信する」とにかく、前に進んでいくということだったのかなと思いました。これを実践につなげていかなければいけないかなと思いました。次回は、10月25日ですので、それまでみなさんお元気でいていただいて、事前に資料を見てこの場で、みなさんで話し合える時間を多く取れればと思います。

一つ、去年より気になったことで、廊下に出ている物が多いなと思いました。場所がないという説明も先ほどあったかもしれませんが、非常時のことを心配していますので、その物をしまえる場所があるといいなと思いました。人数が増えているという状況では学校側も大変なのかなと思いますけれども、これだけ地震も多くなっていますので非常時ということとをこれからは常に頭に置いておかないといけないかなと思います。よろしくお願いします。

【副校長】：ありがとうございました。以上で第1回学校運営協議会を終わります。



＜校内参観の様子＞

小学部棟



高等部棟

(9) 第1回コンプライアンス委員会 *別紙にて報告

(10) 校長挨拶

本日は、時間を計画的に進められないところがあり大変ご迷惑おかけしましたけれども、たくさんの御意見をいただきまして、どうもありがとうございました。学校として取り組んでいきたいことは、お伝えしたの中で読みとっていただけたかなと思います。その中でできることと、できないことの精査。そして、できることの中では、すぐに取り組むことができるのか、あるいは少し時間をかけながらじっくりやっていくのか。そんなことを考えていながら、いただいた御意見を受け止めていければと思っております。本当にすぐにできそうな「〇〇まつりに出たらどうか」といったことを最後にたくさん教えていただきましたので、そういったことを運営協議会の御意見として受け入れられればと思います。今日は、地域連携課として、地域とのつながりを校内でコーディネートする担当も出席していますので、軸となりながら大洲地区の辺りが中心となるかと思いますが、取り組んでいけるように努力していきたいと思っております。今日は、お忙しい中どうもありがとうございました。

(11) 閉会

【副校長】：以上で、第1回運営協議会を閉会します。ありがとうございました。